

2-1 [平日の学習時間・宿題の時間]

小中学生の学習時間は2001年を底に引き続き増加傾向、高校生も増加に転じる

小中学生の授業以外の平日の平均学習時間は、2001年を底に前回2006年に引き続き増加傾向にある。一方、高校生の平日の平均学習時間は一貫して減少していたが、2015年で増加に転じた。また、学習時間のうち宿題の時間もたずねたところ、宿題の時間は小・中・高校生ともに2006年と比べて増加しており、学習時間の増加には宿題の影響があると考えられる。

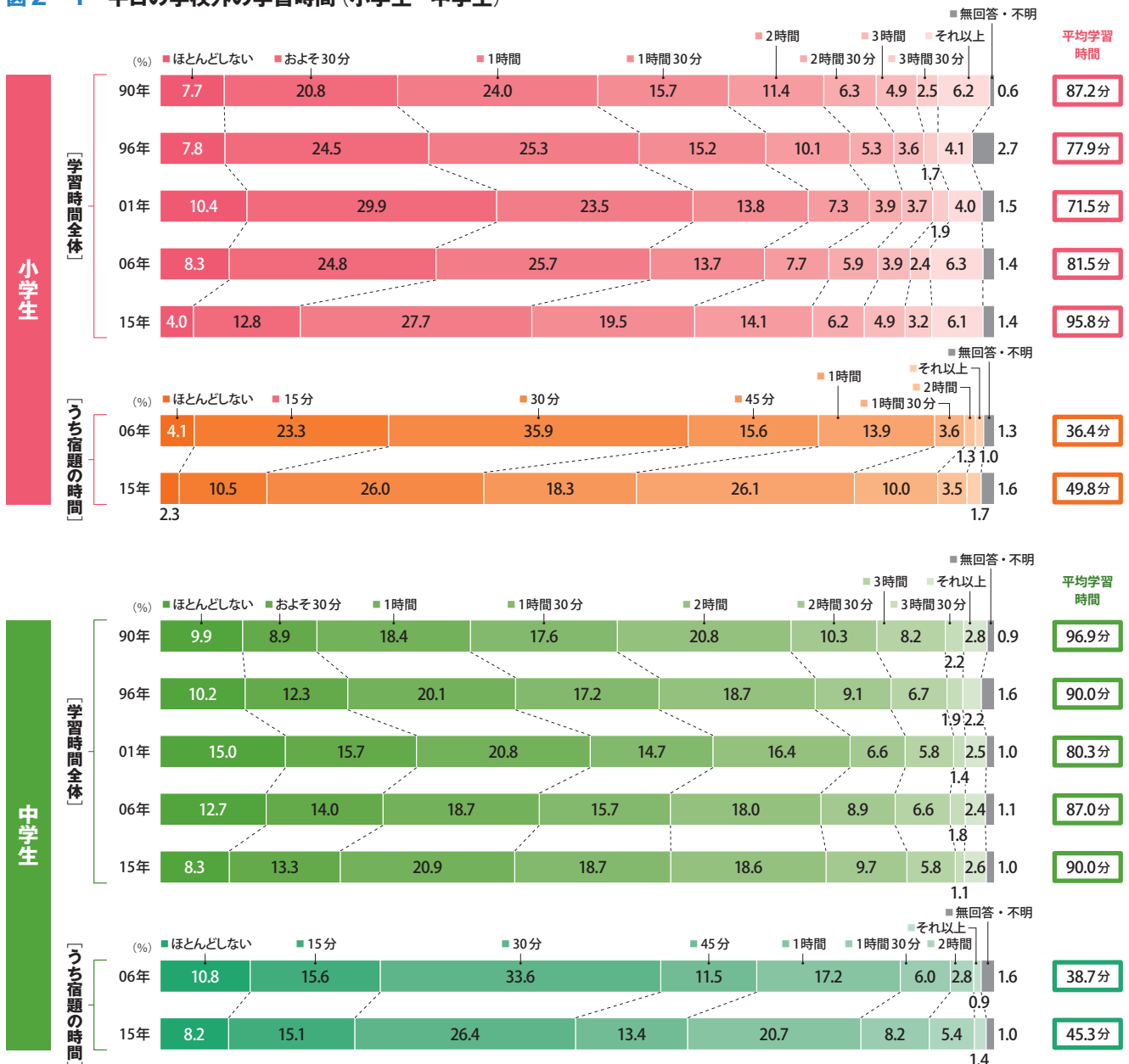
Q1

あなたはふだん(月曜日～金曜日)、学校での授業以外に1日にだいたい何時間くらい勉強していますか。学習塾や予備校、家庭教師について勉強する時間も含めてください。

Q2

Q1で答えた勉強時間のうち、学校の宿題や課題をする時間は何時間くらいですか。

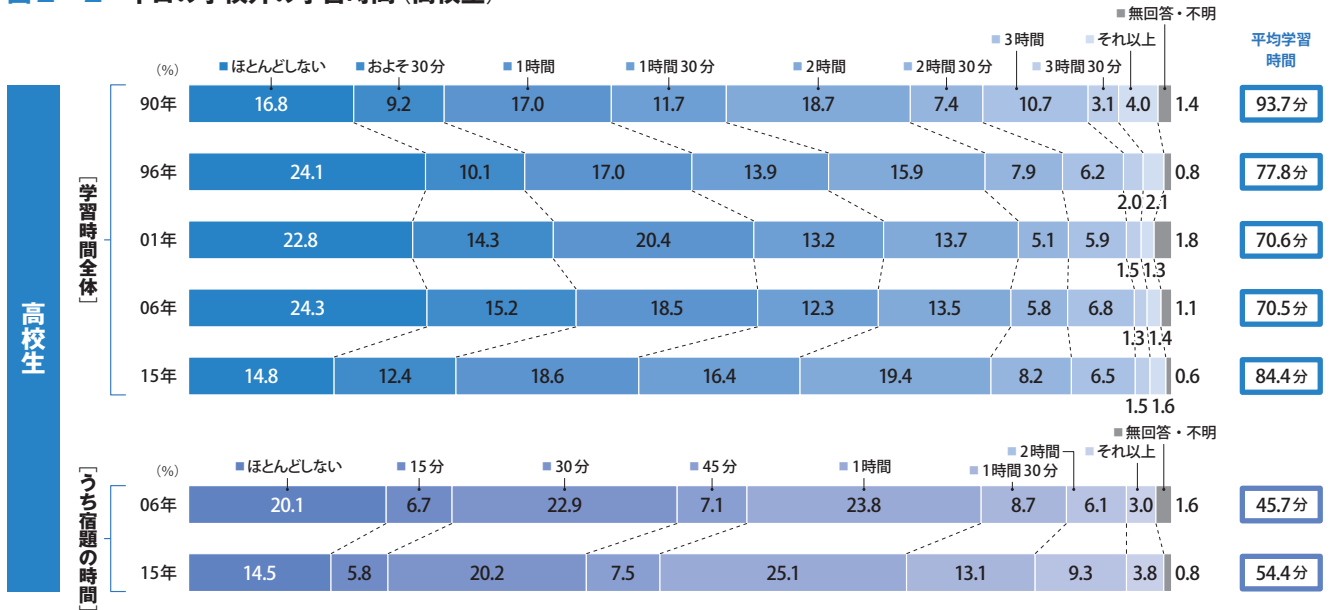
図2-1 平日の学校外の学習時間(小学生・中学生)



注1) 平均学習時間は「ほとんどしない」を0分、「3時間30分」を210分、「それ以上」を240分(宿題時間は「2時間」を120分、「それ以上」を150分)のように置き換えて算出した。
 注2) 小学生は、「学校での授業以外に」の部分を「家に帰ってから」としてたずねている。

2-1 [平日の学習時間・宿題の時間]

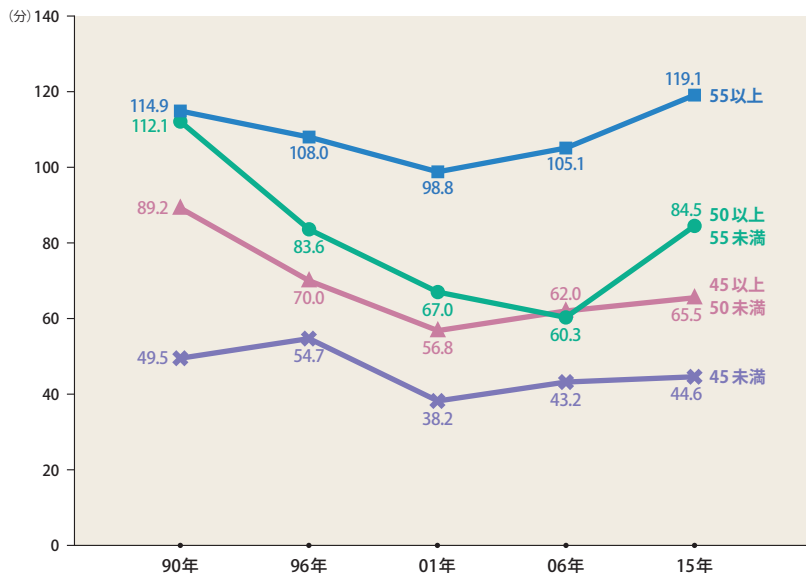
図2-2 平日の学校外の学習時間（高校生）



高校生は中間層の学習時間が増加

学校外の平均学習時間を学校の平均偏差値帯別にみると、「50以上」の層で上昇傾向がみられ、特に1990年から2006年まで下がり続けていた「50以上55未満」の層が2015年に大きく上昇した。

図2-3 平日の学校外の平均学習時間（高校生・学校偏差値帯別）



注1) 平均学習時間は「ほとんどしない」を0分、「3時間30分」を210分、「それ以上」を240分（宿題時間は「2時間」を120分、「それ以上」を150分）のように置き換えて算出した。
 注2) 90年は、学校の平均偏差値ではなく、学校の進学実績を用いて区分している。

2-1 [平日の学習時間・宿題の時間]

小中学生で学習時間に占める宿題の割合が増えている

平日の学習時間に占める宿題の割合は、2006年比で、小学生で7.3ポイント、中学生で6.0ポイント増加した。これを地域別にみると、宿題の増加幅は地域によって異なっており、地域による宿題時間の差が広がっている。高校生は、宿題の割合は65%で前回と変わらないが、宿題の増加と並行して学習時間全体が増えている。これを学校の偏差値帯別にみると、「偏差値50以上55未満」の高校の生徒の平均宿題時間が20分程度増加しており、全体の学習時間の増加幅も大きくなっている。

図2-4 平日の学習時間のうち、宿題をする時間（小学生・中学生、地域別）

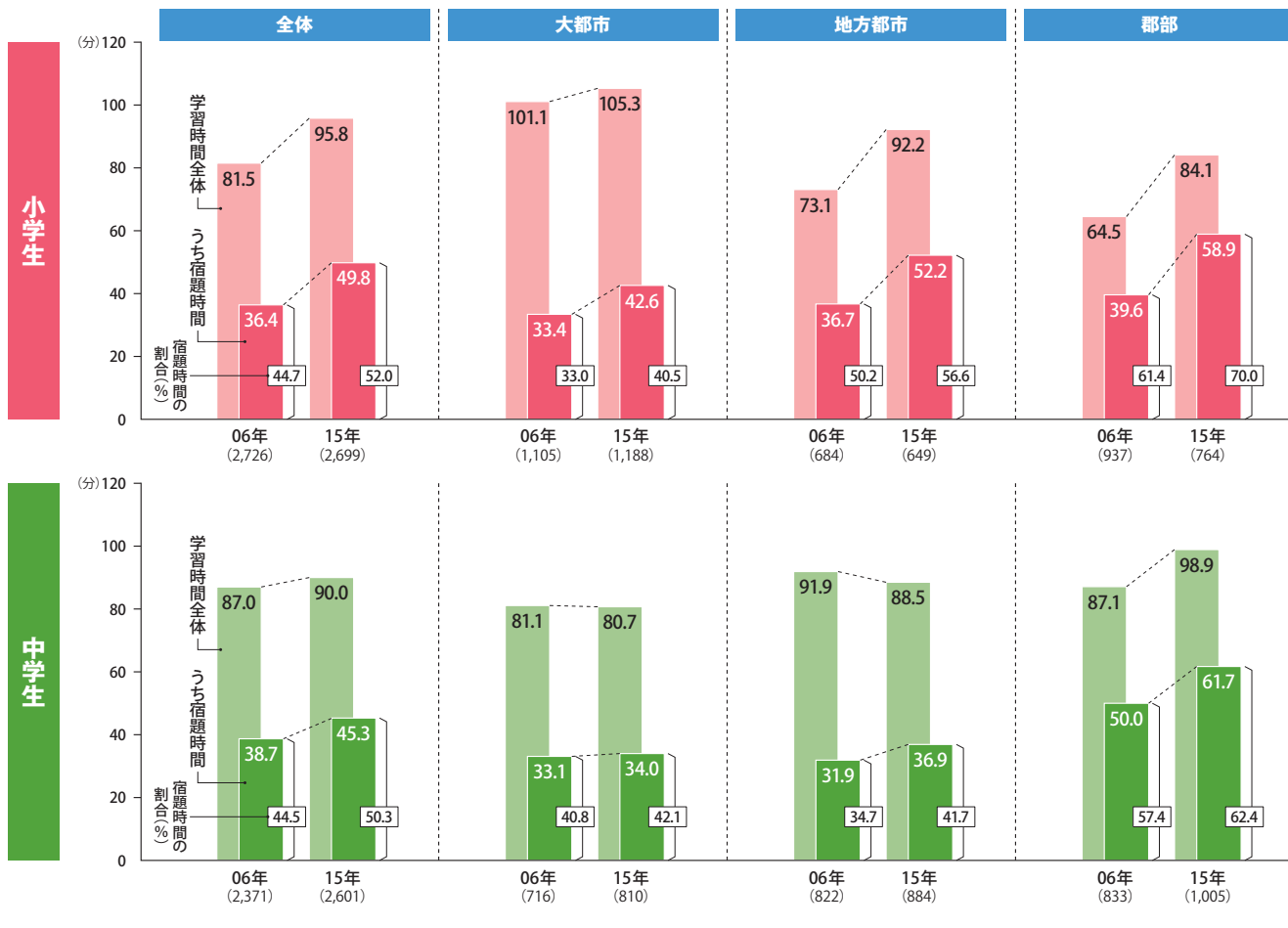
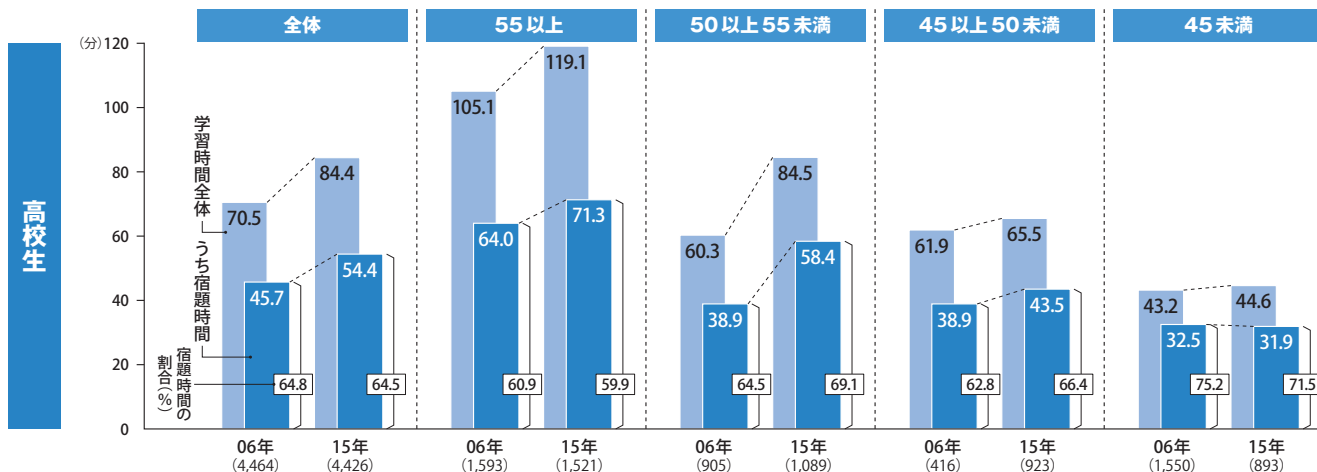


図2-5 平日の学習時間のうち、宿題をする時間（高校生、学校偏差値帯別）



注1) 平均学習時間は「ほとんどしない」を0分、「3時間30分」を210分、「それ以上」を240分（宿題時間は「2時間」を120分、「それ以上」を150分）のように置き換えて算出した。
注2) ()内の数値はサンプル数。

2-2 [宿題の種類]

小中学生に自学ノートが広がっている

宿題の種類と頻度をたずねたところ、小学生では「プリントやドリル」が多く、週4日以上している割合が52.6%、次いで「自学ノートなど自主的な学習」も42.6%と高い。中学生では「自学ノートなど自主的な学習」がもっとも多く、週4日以上が53.4%と半数を超えている。高校生は3分の1が週4日以上「プリントやドリル」をすると回答している(図2-6)。また、高校生は、「出された宿題をきちんとやっていく」との回答が1996年から漸増しており、小中学生の値に近づきつつある(図2-7)。

Q 学校の宿題についてうかがいます。あなたはふだん、次のような宿題をどのくらいしていますか。

図2-6 宿題の内容(小学生・中学生・高校生)

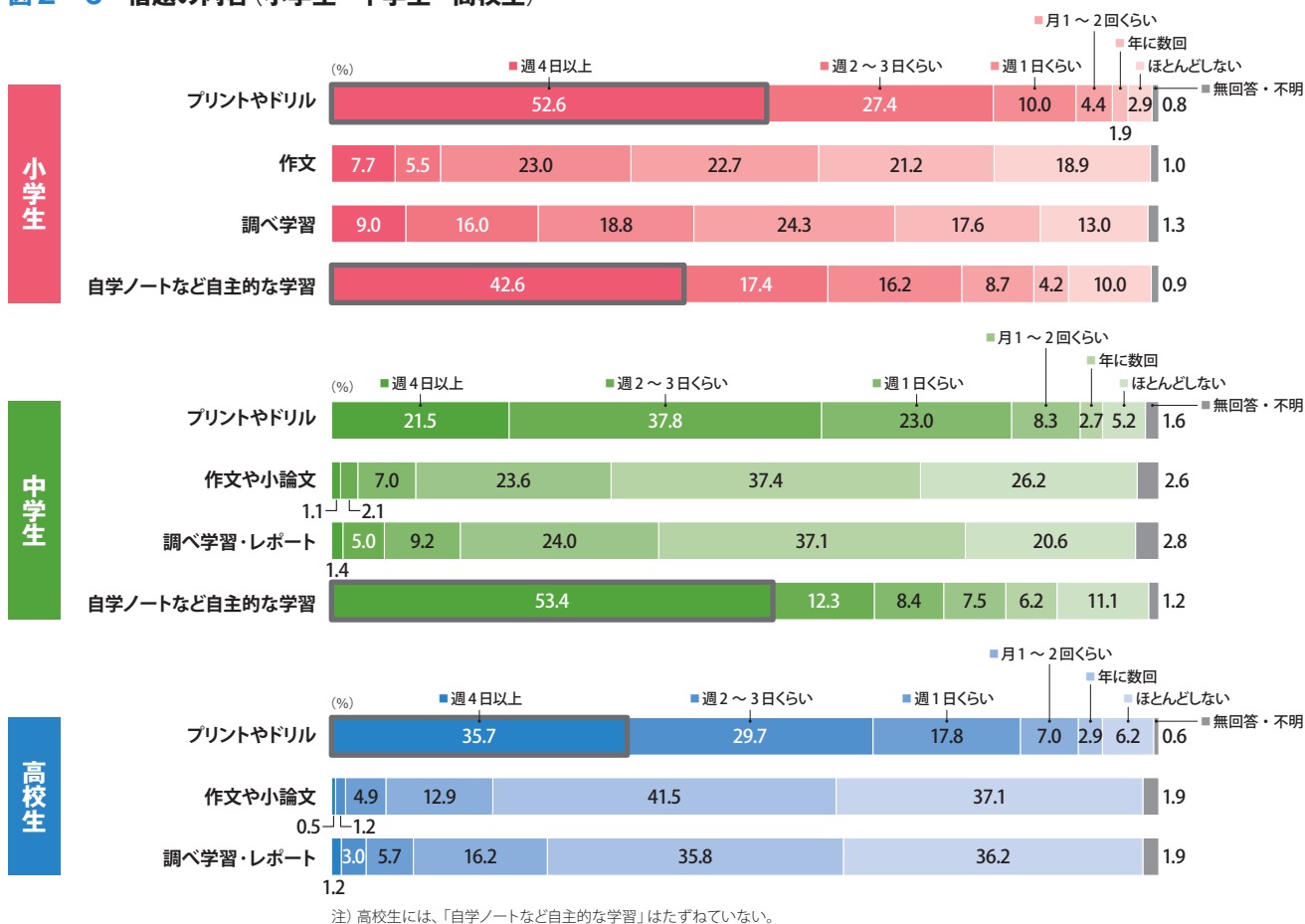
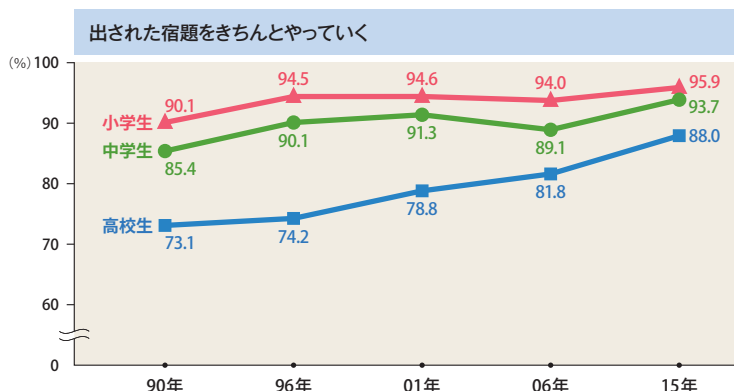


図2-7 「出された宿題をきちんとやっていく」割合(小学生・中学生・高校生)

「あてはまる」+「まああてはまる」の%



2-3 [家庭学習習慣]

ほとんど毎日勉強する中学生・高校生が増加

中学生の家庭学習の平均日数は2001年を底にV字型の推移となり、平均週4.1日家で勉強をしている。高校生の家庭学習の平均日数も週4.1日で、調査開始以来2015年に初めて増加した。「ほとんど毎日する」は、中学生・高校生のいずれも2006年と比べて大幅に増加し(中学生は11.0ポイント、高校生は12.9ポイント)、一方で「家ではほとんど勉強しない」が減少(中学生8.0ポイント、高校生12.3ポイント)し、調査開始以来もっとも少なくなっている。

Q あなたはふだん、家でどのくらい勉強をしますか。 ※学習塾や予備校、家庭教師との学習は除きます。

図2-8 家庭学習の日数(中学生・高校生)

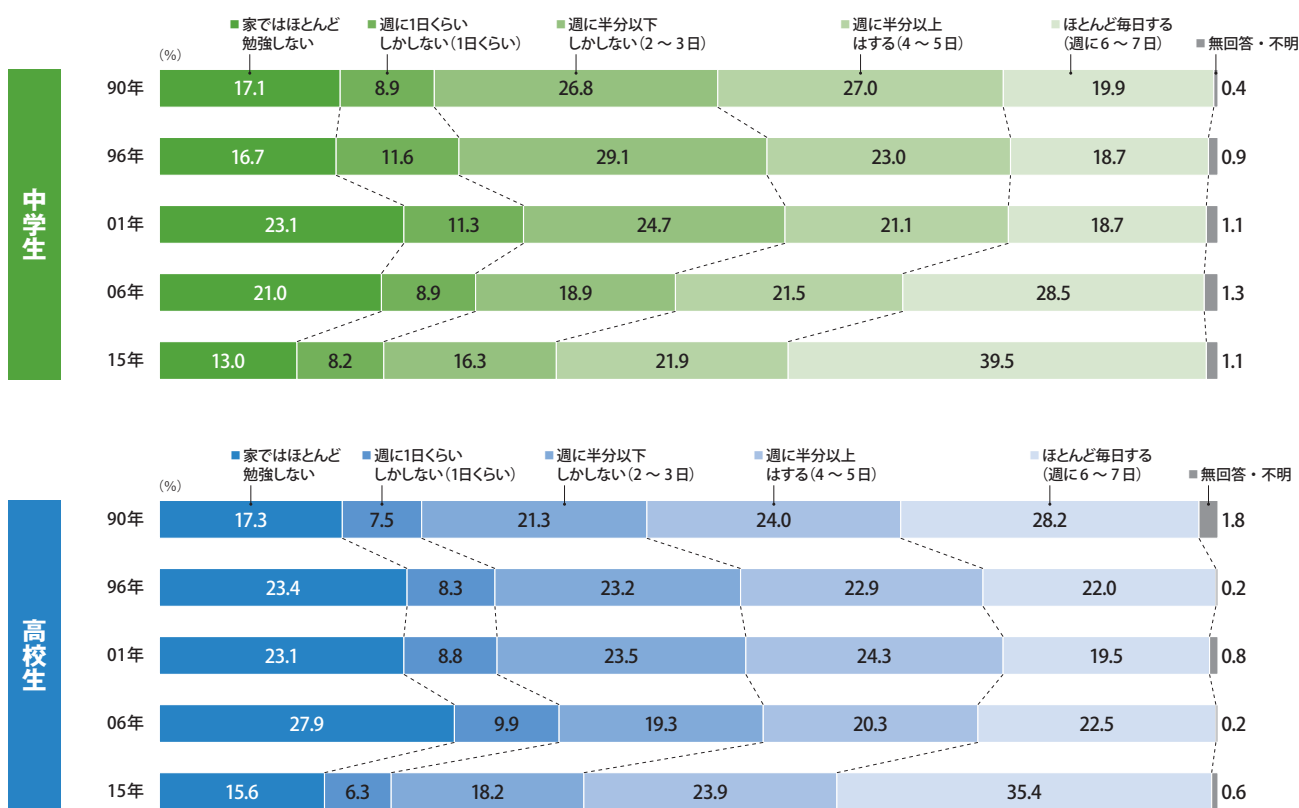
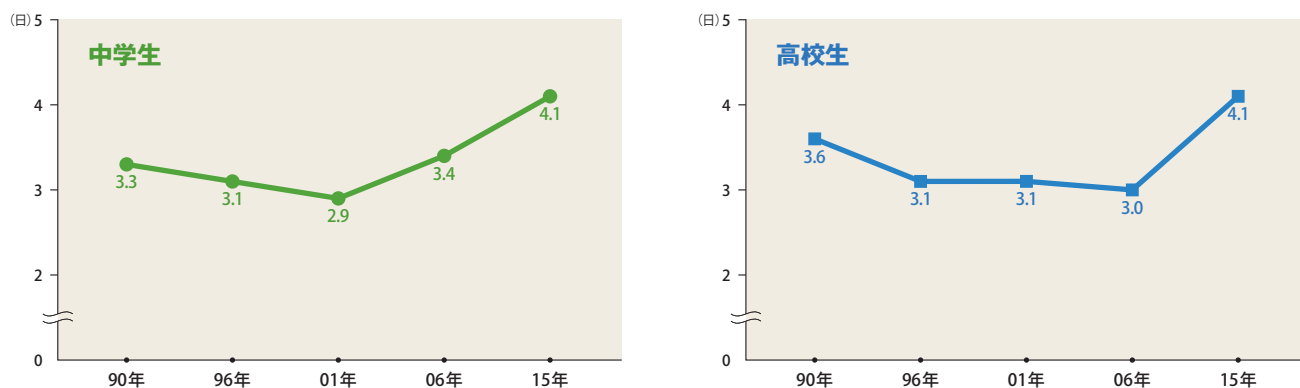


図2-9 家庭学習の週あたりの平均日数(中学生・高校生)



注) 家庭学習の平均日数は「ほとんど毎日する(週に6~7日)」を6.5日、「家ではほとんど勉強しない」を0日のように置き換えて算出した。

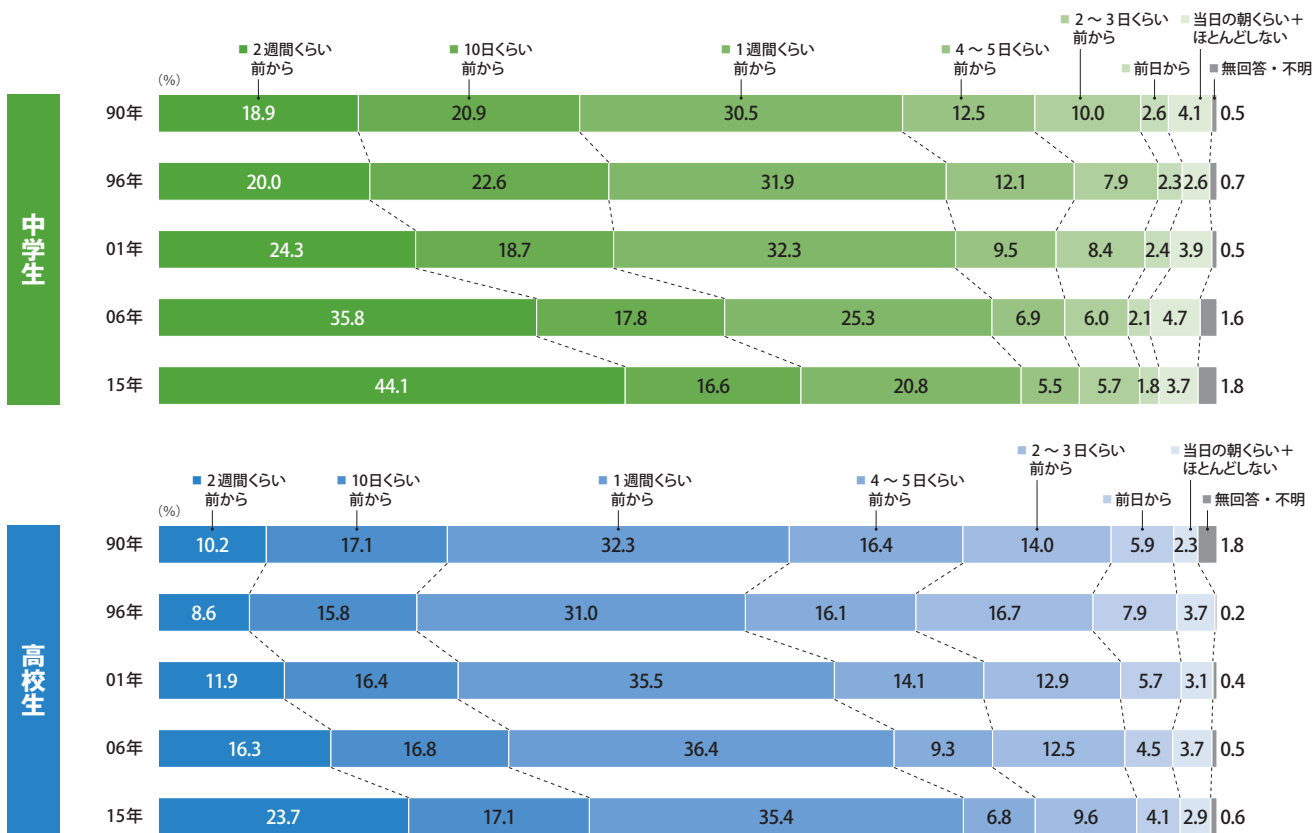
2-4 [テスト勉強の開始時期]

テスト勉強を「2週間くらい前から」始める中学生が4割、高校生が2割に増加

テスト勉強の開始時期は、中学生では「2週間くらい前から」が44.1%ともっとも多く、1990年と比べると25.2ポイント増加した。高校生では「1週間くらい前から」が35.4%ともっとも多く、1996年を境に「2週間くらい前から」「10日くらい前から」「1週間くらい前から」が増加している（3項目合計で1996年比20.7ポイント増）。また、勉強のタイプとして「毎日こつこつ勉強する」のか「試験の前にまとめて勉強する」のかをたずねたところ、中学生では、「試験の前にまとめて」の方が多いものの、「毎日こつこつ」が徐々に増えてきている（図2-11）。

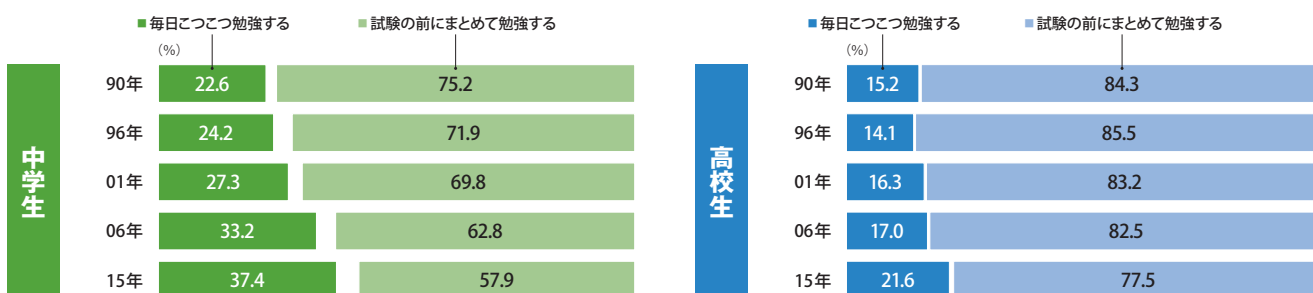
Q テスト（定期考査）前には、あなたはいつ頃からテスト勉強を始めますか。

図2-10 テスト勉強の開始時期（中学生・高校生）



Q あなたの勉強の仕方を分類するとすれば、どんなタイプになると思いますか。どちらかといえば近いほうのタイプに○をつけてください。

図2-11 勉強のタイプ：「毎日こつこつ」か「試験の前にまとめて」か（中学生・高校生）



注) 無回答・不明は省略している。そのため、足しても100.0%にならない。

2-5 [家での学習の様子]

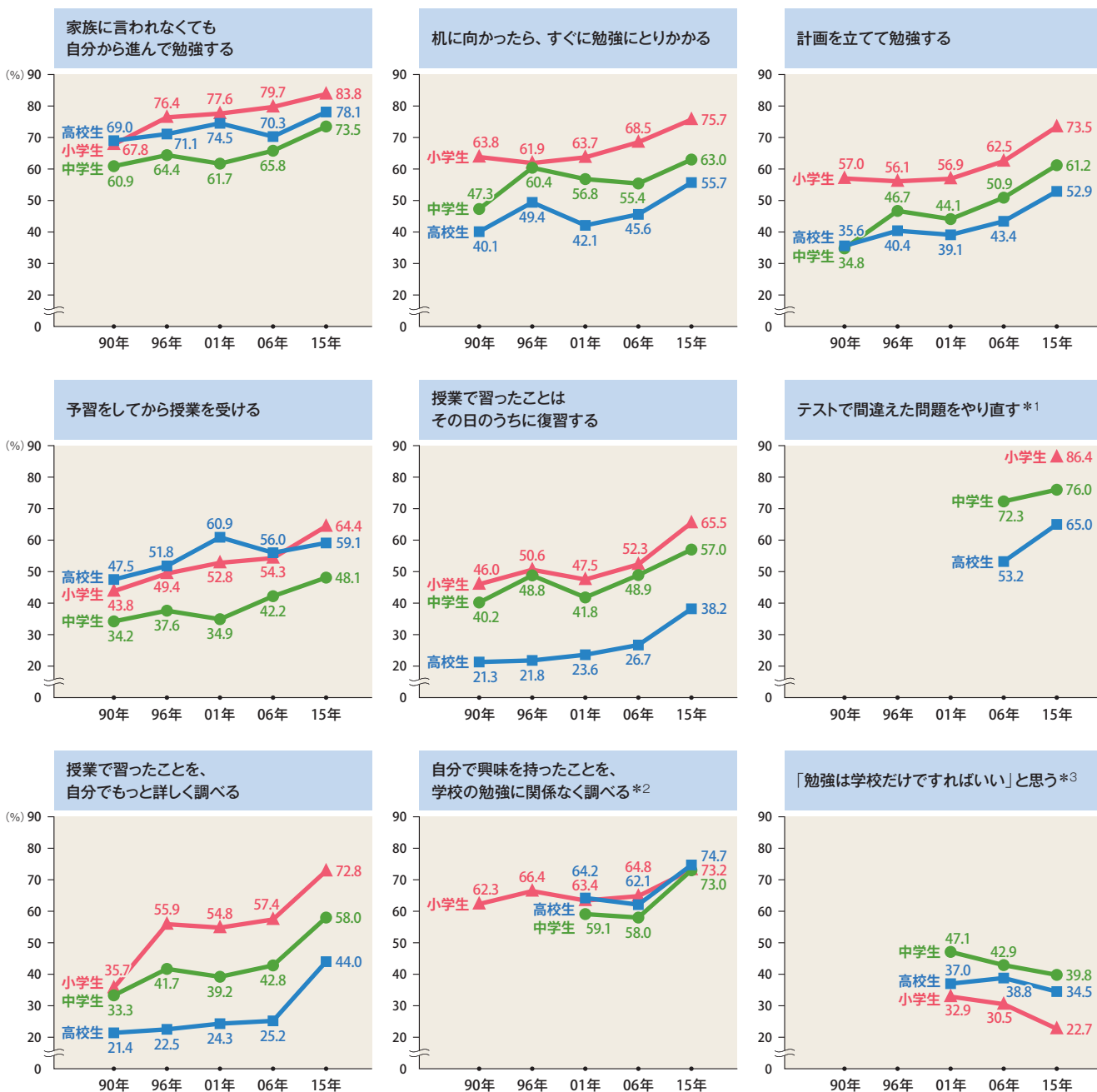
「授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる」が2006年比で15ポイント以上増加

家での学習の様子や意識についてたずねたところ、2006年比でほとんどの項目が上昇した。特に上昇幅が大きいのが、「授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる」「自分で興味を持ったことを、学校の勉強に関係なく調べる」「計画を立てて勉強する」「授業で習ったことは、その日のうちに復習する」であった。1990年からみると家での学習によりまじめに取り組む児童・生徒が増加している。

Q 家での勉強の様子についてうかがいます。

図2-12 家での勉強の様子（小学生・中学生・高校生）

「あてはまる」+「まああてはまる」の%



注) *1の項目は中学生・高校生は06年から、小学生は15年のみたずねている。

*2の項目は中学生・高校生は01年からたずねている。

*3の項目は01年からたずねている。

2-6 [本やメディアへの接触]

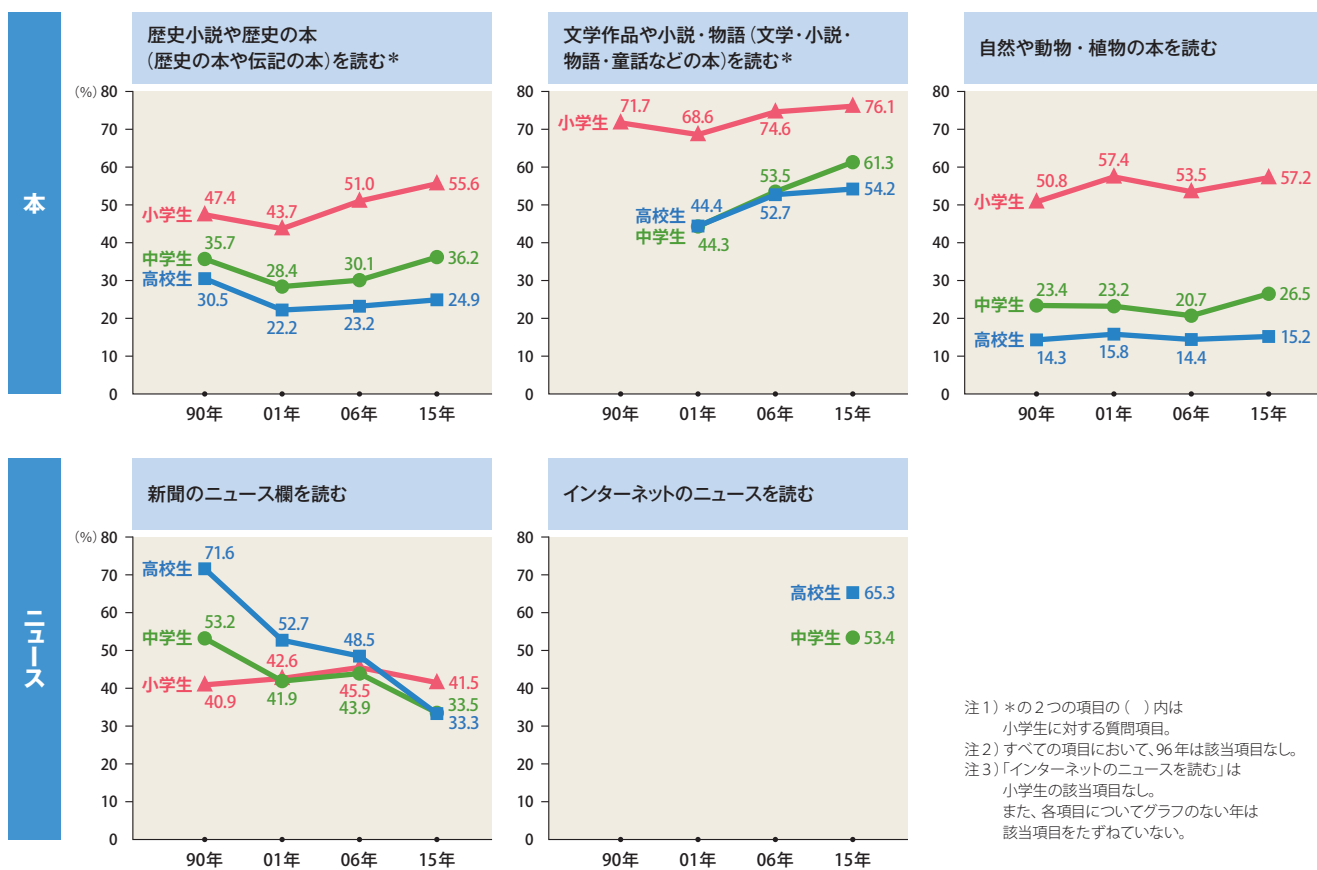
新聞のニュース欄を読む高校生が1990年から半減し、ネットのニュースが65%に

読書をしている割合は、中学生で、歴史や文学、自然や動植物など、どのジャンルについても5ポイント程度増えている。新聞のニュース欄を読む割合は、高校生で1990年は71.6%だったのに対し2015年は33.3%に減っているが、一方でインターネットのニュースを読む割合が65.3%となっている。また、テレビの視聴時間も2001年から大きく減少傾向にある(図2-14)。

Q あなたは、ふだん(学校の授業や宿題以外で)次のことをどのくらいしますか。

図2-13 読書や情報の入手(小学生・中学生・高校生)

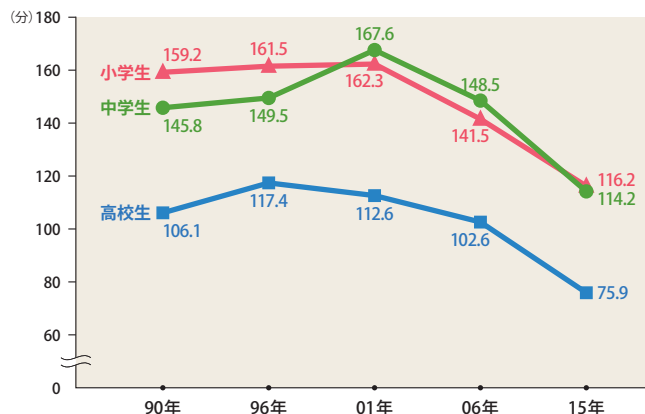
「よくする」+「時々する」の%



注1) *の2つの項目の()内は小学生に対する質問項目。
 注2) すべての項目において、96年は該当項目なし。
 注3) 「インターネットのニュースを読む」は小学生の該当項目なし。
 また、各項目についてグラフのない年は該当項目をたずねていない。

Q ふだん(月曜日～金曜日)テレビを1日に何時間くらい見ますか。

図2-14 平日のテレビの平均視聴時間(小学生・中学生・高校生)



注1) 選択肢は「ほとんど見ない」「およそ30分」「1時間」「1時間30分」「2時間」「2時間30分」「3時間」「3時間30分」「それ以上」としている。
 注2) テレビの視聴時間の平均値は「ほとんど見ない」を0分、「3時間」を180分、「それ以上」を240分のように置き換えて算出した。

2-7 [学習とICTメディア]

小・中・高校生の半数以上が勉強にスマートフォンやタブレット、パソコンを使っている

小・中・高校生の半数以上（小55.5%、中49.9%、高60.5%）が勉強にICTメディアを使うことがある（「よくある」+「時々ある」の%）と回答。中学生にその内容についてたずねたところ、「英語や国語、古典の辞書を使う」がもっとも多く（中60.1%、高72.4%（「よくある」+「時々する」の%、以下同））、次いで「調べ学習やレポートをまとめるために情報収集をする」（中59.9%、高66.3%）、「メールやチャットで友だちにわからないところを質問する」（中51.2%、高57.8%）と続く。

Q あなたは、パソコンやスマートフォン、タブレットなどを使って勉強することがありますか（学校の授業での利用は含めません）。

Q あなたは、パソコンやスマートフォン、タブレットなどを使って次のようなことをしますか。
※「よくある」「時々ある」の回答者のみ

図2-15 ICTメディアの学習利用の有無（小学生・中学生・高校生）

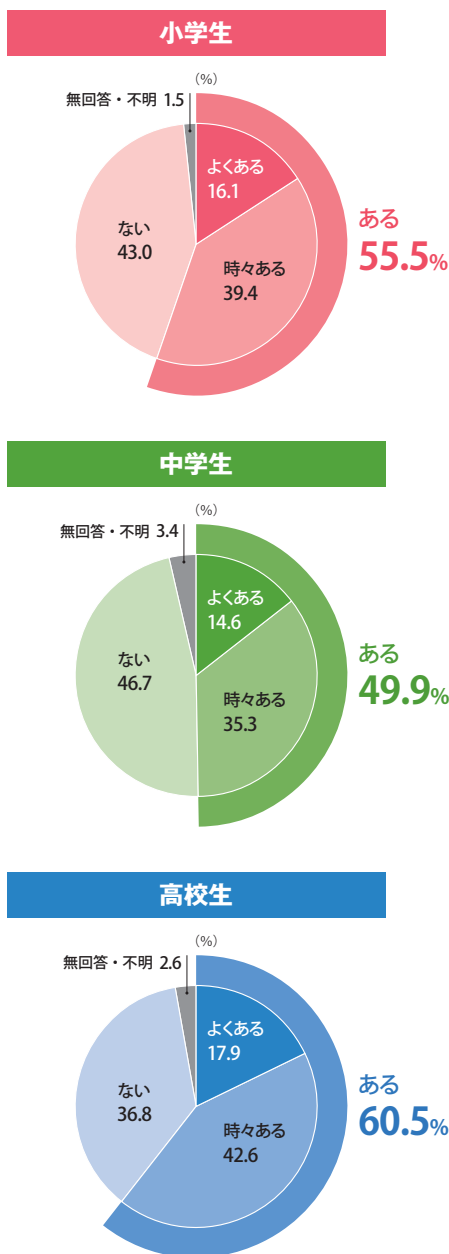
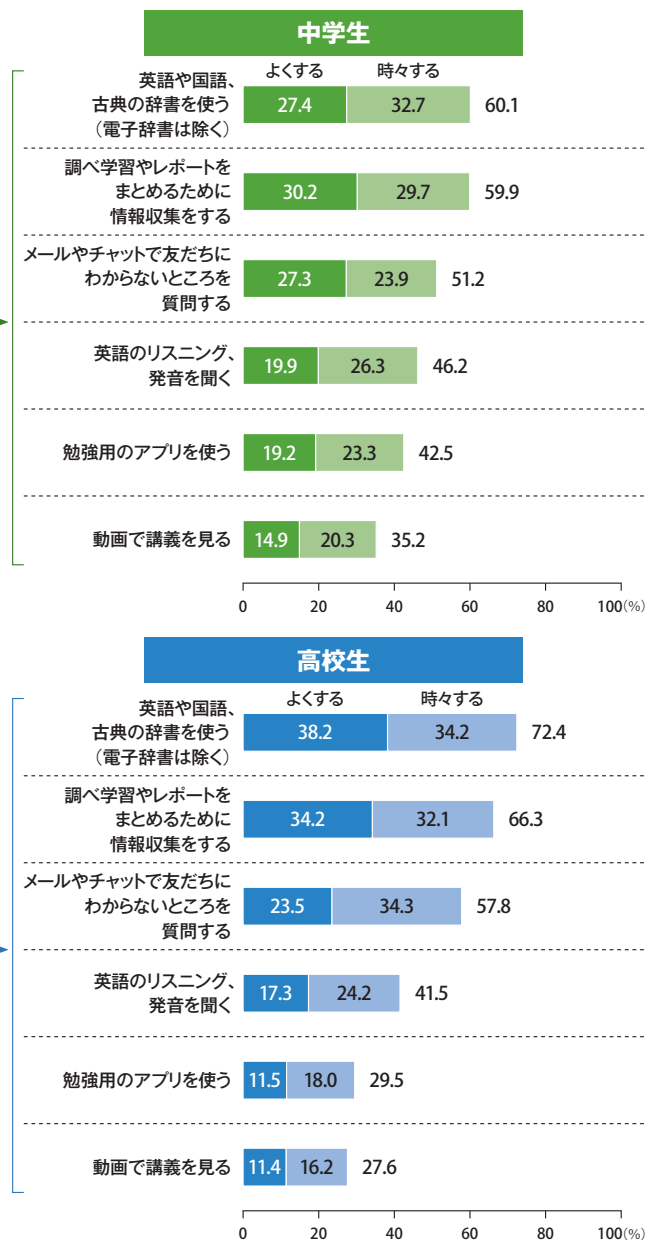


図2-16 ICTメディアの学習利用の内容（中学生・高校生 [利用者のみ]）



注1) 小学生はたずねていない（以下同様）。

注2) 対象は、ICTメディアを学習に利用することがある（「よくある」+「時々ある」）と回答した、中学生1,347名、高校生2,681名。

2-7 [学習とICTメディア]

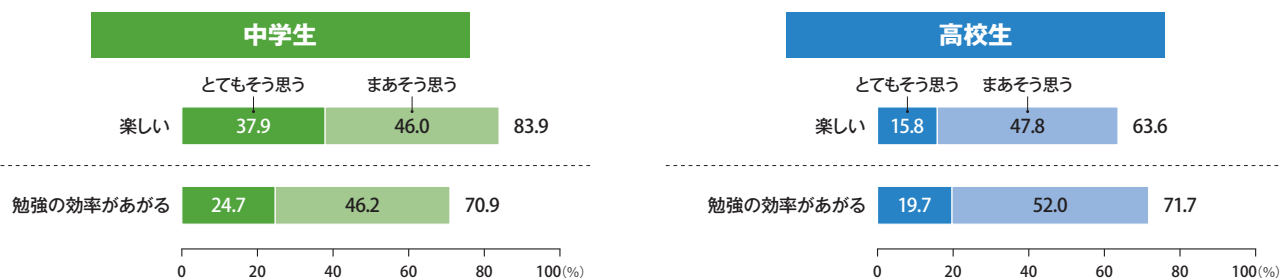
ICTメディアを使って学習している中学生の8割、高校生の6割が「楽しい」と感じている



あなたは、パソコンやスマートフォン、タブレットなどを使った勉強をどのように感じていますか。

※「よくある」「時々ある」の回答者のみ

図2-17 ICTメディアの学習利用（中学生・高校生 [利用者のみ]）



注) 対象は、ICTメディアを学習に利用することがある（「よくある」+「時々ある」）と回答した、中学生1,347名、高校生2,681名。

中学生の3割、高校生の5割が「携帯電話やスマートフォンが気になって勉強に集中できない」

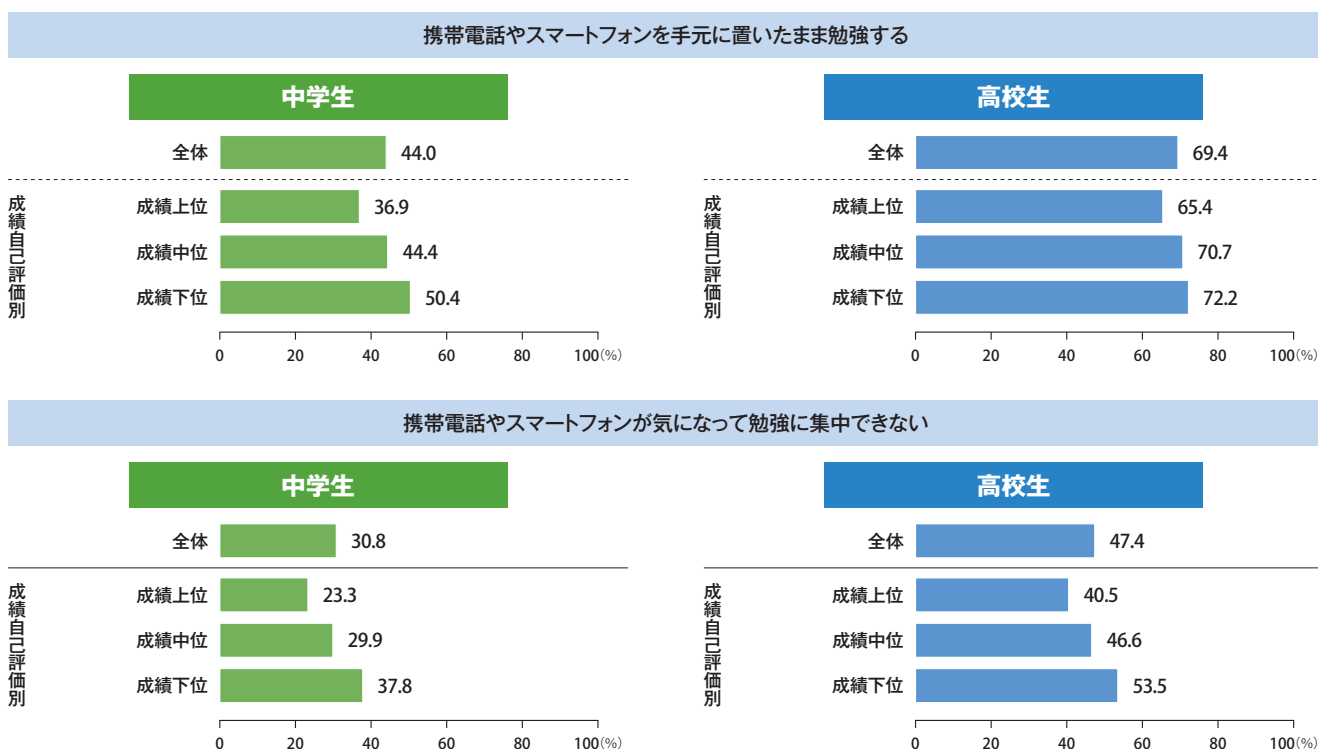
家で、携帯電話やスマートフォンを手元に置いて勉強をしている中学生は44.0%、高校生が69.4%（「あてはまる」+「まああてはまる」の%、以下同）、また、「携帯電話やスマートフォンが気になって勉強に集中できない」と感じている中学生が30.8%、高校生47.4%である。それらを成績自己評価別にみると、中高生とも成績が低い層ほど肯定率が高い傾向がみられている。



家での勉強のようすについてうかがいます。

図2-18 携帯電話・スマートフォンの学習への影響（中学生・高校生 [全体]）

「あてはまる」+「まああてはまる」の%



注) 成績自己評価は、「現在の総合的な成績は、学年の中でどのくらいですか」の項目に「1（上のほう）～3」と回答した生徒を「上位」、「4（真ん中）」を「中位」、「5～7（下のほう）」を「下位」としている。